

知ってとくとく獣害対策（ハクビシン編）

～「知って」「防いで」「捕る」 生態を理解して正しく対策をしよう！～

小出哲哉（新城設楽農林水産事務所農業改良普及課）

【平成24年1月23日掲載】

【要約】

ハクビシンは6 cmの隙間があれば通り抜けられるため、網で防御するのは難しい。しかし、電気ショックに弱いため、電気柵を上手に使うことで撃退する。ポイントは電気柵線を地面（一極）から5 cmで設置する。また、比較的簡単に捕獲できるので、わな免許を取って捕獲する。

1 生態・行動・生活を知ろう！

- ・ジャコウネコ科
- ・体長は尾まで含めるとおよそ1 m。
- ・雑食性で何でも食べるが、果実が好き。
- ・長期間、親子で生活している。
- ・複数の個体の行動域は重なることがある。
- ・出産期は不定期で1度に2～3頭出産する。
- ・エサ場の近くに「ねぐら」をもつ。
- ・ねぐらは古屋の縁の下、屋根裏などで、多い場合は20ヶ所もねぐらを持つ個体もある。
- ・溜め糞の習性があり、家の屋根裏が糞まみれになる。
- ・夜行性で、夜になるとねぐらからエサ場へでかける。
- ・木登りが得意で電線も渡ることができる。
- ・狭いところも通り抜けられ、6 cmの隙間があれば通り抜けられる。
- ・電気ショックに弱い。
- ・垂直跳びは得意で110cmの壁に飛び上がる。
- ・木から木へは飛び移ることはない。

2 正しく対策をしよう！

（1）エサを無くす！

- ・生ゴミや収穫しない果樹等を放置しない。
- ・農作物を食べさせないようにする。
- ・地域ぐるみで実施する。

（2）特性を利用した有効な柵の設置をしよう！

「木登りが得意」「狭い隙間も通り抜けられる」「電気ショックに弱い」ことを考慮する。

ア ネットで囲う

- ・ハクビシンから露地の農作物をネットだけで守ることは非常に難しく、ネットで囲っただけでは駄目。ネットだけで防ぐ場合は、隙間を完全になくす（図1）。

- ・侵入は、最初にネットの地際を探し、次にネットをかじり、その後登る。
- ・進入するために穴を掘ることはない。

イ 電気柵

- ・鼻面は6 cmであるため、電気柵の高さは5, 15, 25cmの10cm間隔で3段に張る(図2、3)。
- ・草により漏電をおこしやすいため、除草剤散布をこまめに行うか、直下に防草シートか畦波板を敷く。

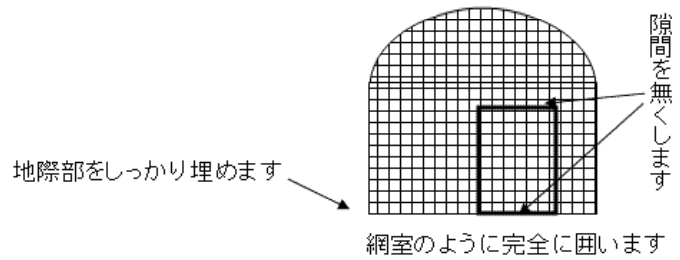


図1 ネットの囲い方



図2 ハクビシンの鼻面

ウ 白落くん

- 登らせて感電させる「白落くん」を使い、電気ショック!! (図4)
- ハクビシンの登る習性を利用してネットの上部5 cmに電気柵線 (+極) を入れて感電させる。ネットの上部に直管パイプ (-極) を入れる。

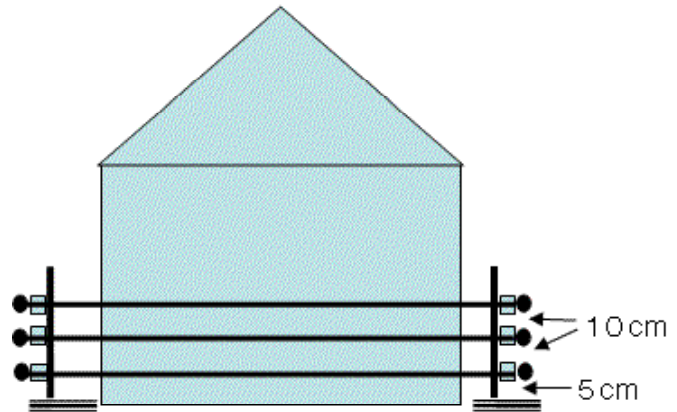


図3 電気柵の高さ

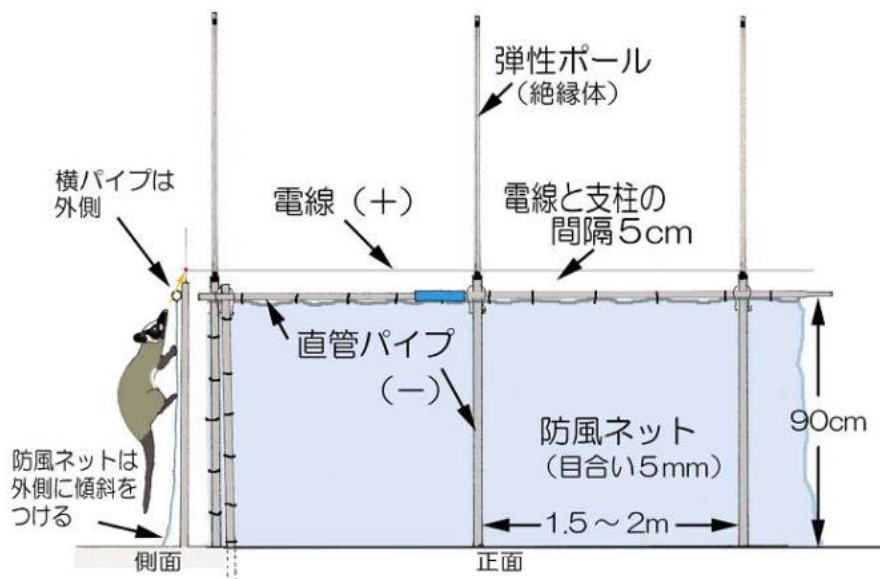


図4 白落くん

埼玉県農林総合研究センターのホームページから引用

<http://www.pref.saitama.lg.jp/uploaded/attachment/381306.pdf>

(3) 効果的な捕獲をしよう！

- ・畑に来ている個体を捕獲する。
- ・箱ワナで捕獲する。ただし、わな免許と許可・登録が必要。
- ・箱ワナを畑のネットのすぐ外側に設置する（囲ってあるからこそ捕まる）。
- ・エサは、バナナやミカンなどの甘い果物や地域で食べているエサを網袋に入れてつるす。
- ・被害がある前から捕獲する（被害が出ているときはエサが沢山あるので捕え難い）。
- ・複数個体いる場合が多いので1頭でやめずに続けて捕獲する。
- ・捕獲後に殺処分できる環境(準備)を整えてから捕獲する。絶対によその地域に放さない。



誘引用のエサ ワナに慣れさせるエサ 捕獲用のエサ
写真1 箱ワナによる捕獲



写真2 捕獲されたハクビシン

この内容は古谷益朗氏の学説を参考にした

Copyright (C) 2012, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.